

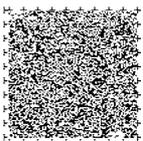
## 第4章 施策の展開

---

基本目標1 市民の暮らしを支える仕組みづくり

基本目標2 思いやりと支え合いの心づくり

基本目標3 安心して暮らしやすい地域づくり



# 基本目標 1 市民の暮らしを支える仕組みづくり

## 方向性 1 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり

### ■現状と課題

従前より「介護」や「子育て」などに課題を抱える世帯や、生活に困窮する世帯はありましたが、昨今は、複合的な課題を抱えるケースも増加しています。例えば80代の親と50代の働いていない独身の子どもが同居する世帯、介護と育児の課題を同時に抱える世帯など、生活に困窮するほかにも多様な問題に陥っているケースが増えてきています。

こうした複合的な課題を抱えるケースの解決に向けて、福祉関係の領域のみならず、医療、保健、雇用・就労、司法、産業、教育、住居、家計、権利擁護、多文化共生など多様な分野で横断的な体制を構築する必要があります。

また、分野横断的な体制を構築するには、行政のみならず、社会福祉協議会をはじめとする社会福祉団体やボランティア組織など市内で活動する関係機関や関係者の協力が必要になることから、連携する体制づくりを検討する必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【福祉のまちづくりに向けた、行政と地域住民の関係について、あなたの考えに最も近いものはどれですか】では、「福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである」が43.6%と最も割合が高く、団体アンケートの設問【地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項】では、「支援関係機関間の連携」が23.2%で最も割合が高くなりました。

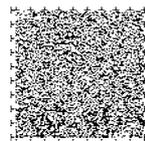
### ■目指す姿

誰もが住み慣れた地域の中で、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる重層的な支援体制の構築を目指します。

## 市の主な取組

### ①重層的支援体制整備事業の検討 福祉相談課

既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な新たな支援体制を構築するために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業について検討していきます。



## ②生活困窮者・世帯の自立支援 福祉相談課

生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。

## ③地域包括ケアシステムの深化 長寿はつらつ課

介護や支援の必要性に関わらず、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、各種事業を実施します。

地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムの推進拠点としての機能強化を進めながら、高齢者等の総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援等の包括的支援事業を実施します。

また、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、地域ケア会議運営事業、認知症総合支援事業を行うとともに、高齢者虐待防止事業や、成年後見制度利用支援事業等を進めていきます。

## ④児童虐待への対応 こども未来課

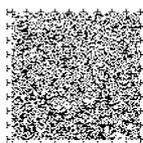
要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を定期開催し、体制づくりや情報共有など関係機関との連携強化を図るとともに、個別支援会議を適宜開催し、児童虐待対応に取り組みます。

## ⑤市民参画と協働による地域づくりの促進 政策企画課

講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
生活困窮に関する相談件数	563件	600件
地域包括支援センターの数	5か所	6か所



## 社協の主な取組

### ①関係機関との連携

高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係者との会議や情報交換等を通じて連携を深めてきました。今後、さらに「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域住民や地域の様々な関係者・地域団体の参加と協働をもとに、地域の生活課題（ニーズ）について解決できる仕組みをつくっていきます。

### ②身近な福祉圏域の検討

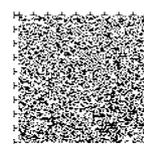
第3期活動計画では、地域包括支援センターの圏域に合わせ地区活動を行ってきましたが、住民が身近に感じる福祉圏域について見直し・検討していく必要があることを認識しました。地域での福祉活動を、市民や関係団体と共に進めてきた従来のエリア（福祉圏域）を参考にしつつ、市内の他分野の圏域について情報を収集し、地域住民が身近に感じ、参加しやすい新たな福祉圏域を検討・研究していきます。

### ③コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置

地域において、ちょっとした困りごとから生活上の課題を抱える個人や世帯等、様々な地域課題が存在し、社協は地域住民と共に課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、困りごとがあっても自ら相談できないなど、福祉課題を抱えている人が増えてきています。そのような人たちが地域から孤立しないように、身近な生活課題を見つけ（気づく）、近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者、関係機関等との連絡調整をしながら（つなぐ）、地域で支え合う仕組みを一緒に考え（つくる）、地域の多様な生活課題の解決に向けて取り組んでいけるようCSWの配置に向けて検討していきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
各関係機関や各事業に関わる情報交換	69件	100件
身近な福祉圏域の検討	—	2回



## 地域でできること

### 《市民》

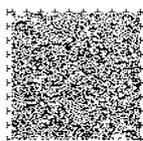
- 地域団体等の活動に担い手として参加する。
- 関係機関や地域団体等とつながり、顔の見える関係を築く。

### 《関係団体等》

- 関係機関や地域団体等によって、情報交換をするなどネットワークづくりを進める。



市や社協が行う福祉に関するイベントや講演会に参加してみました。地域で暮らすことを考えるきっかけになり、まちの人への関心やご近所さんとの付き合い方が変わりました。



## 方向性 2 相談支援体制の充実

### ■現状と課題

市では、平成30(2018)年度に福祉相談課を設置し、福祉の総合相談を、社協では平成29(2017)年度から福祉の総合相談を行っています。どちらも、相談の内容に応じて、既存の制度を活用した支援を行うほか、関係部署や関係機関を案内するなど、必要な支援につなげるよう努めています。

また、高齢者の相談をはじめ、障害のある人の就労相談、こども相談、生活困窮者の相談など各分野における相談支援体制を整え、各担当課で専門的に対応しています。

社協では、他にも、管理運営する施設において、利用者本人及び家族等の相談事に日常的に対応しています。また、ボランティアセンターにおいては、ボランティアをやりたい人、ボランティアに来てほしい人からの相談にも対応しています。

今後は、中高年のひきこもり、若年性認知症、ごみ屋敷問題など福祉ニーズの多様化・複雑化によって、制度の狭間に陥っているケースや、複合的に分野をまたがる困難なケースも現れていることから、国が提唱するように、介護、障害、子ども、困窮に関する相談を一体的に、本人・世帯の属性にかかわらず、包括的に実施できる相談支援体制を検討する必要があります。

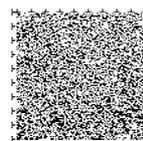
### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか】では、44.7%の割合の人が「いない」と回答しました。

【今後、市及び社協で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか】では、「相談支援体制の整備」が24.5%を占めており、団体アンケートの設問【すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと】では、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が55.4%と最も割合が高くなりました。

### ■目指す姿

高齢者、障害のある人、子育て世帯など地域の住民の身近な困りごと相談をはじめ、複雑化・複合化した相談に対応する包括的な相談支援体制の構築を目指します。



## 市の主な取組

### ①福祉の総合相談 福祉相談課

高齢者の困りごと相談をはじめ、生活困窮など複雑化・複合化した様々な相談に対応していくほか、アウトリーチを含む早期的な対応や本人・世帯を包括的に受け止めるなどの支援に努めます。

### ②障害者相談支援 障害福祉課

指定特定相談支援事業所等が障害児者とその保護者に対し、必要なサービスや制度の案内を行うとともに、困り事などの相談に対応していきます。

### ③精神保健福祉相談 障害福祉課

主に精神障害のある人やその家族の困りごとなどに対して、精神保健福祉士が相談に対応していきます。

### ④障害者相談支援センター等による相談 障害福祉課

障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターのほか、各施設職員、身体障害者・知的障害者相談員、ケースワーカー等が対応していきます。

### ⑤高齢者総合相談 長寿はつらつ課

市と各地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員を中心に、高齢者や家族に対する相談体制の充実を図ります。

### ⑥子ども家庭総合支援拠点の整備 こども未来課

子どもとその家庭、妊産婦等を対象に地域の実情の把握、相談対応、調査、継続的支援等を行う子ども家庭総合支援拠点の設置を検討し、福祉、保健、医療、教育等の関係機関と連携した支援を行います。

### ⑦女性総合相談・DV相談 人権庶務課

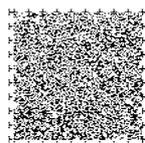
それいゆぷらざ(女性センター)では、女性が抱える悩み事全般に関する女性総合相談と、配偶者やパートナーからの暴力に関するDV相談を行います。

### ⑧人権相談 人権庶務課

人権擁護委員と連携しながら人権相談を実施し、市民の基本的な人権の擁護に努めるとともに、市民の人権尊重意識の向上を図ります。

### ⑨消費生活相談 地域づくり支援課

消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
福祉の総合相談件数	1,211件	1,400件

### 社協の主な取組

#### ①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援

社協が運営する児童を対象とした施設において、児童がいつもと違う様子であれば専門機関等へ相談するなど、他機関と連携を図っています。一人で悩まないように相談ができる場があることを広く周知し、多様な相談に対応できるように関係機関との連携をさらに深めていきます。

#### ②身近な総合相談支援の充実

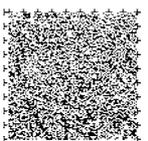
平成29(2017)年度から総合相談の窓口を設置し、住民の困りごとを幅広く受ける体制を整えました。日常生活の中で住民が感じる不安や困りごとに対し、誰もが気軽に利用できる総合相談窓口を目標に、様々なニーズに応えるため児童・高齢・障害等の各専門機関と連携し、総合相談の充実を図ります。

#### ③ボランティア活動の相談・コーディネート推進

ボランティアコーディネーターは、市内の福祉施設や活動団体、関係団体等のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアをやりたい人とボランティアに来てほしい人をコーディネートします。また、ボランティア募集やボランティア団体の活動状況等をボランティアニュース・広報紙「社協あさか」・SNS等で発信し、ボランティア情報を必要としている人へ届けるとともに、ボランティアに参加する人が増えるように努めます。

#### ④身近なボランティアの相談窓口の充実

ボランティアセンターは、「地域に開かれた社協のフロント(窓口)」としての機能を有するため、ボランティアに関する相談や情報掲示ができるスペースを確保し、ボランティアセンター窓口の機能充実を図ります。また、ボランティアセンターまで来所することが難しい人へ向けて、市内の公共施設、スーパーやドラッグストア等に出張ボランティアセンターの開設を働きかけ、ボランティア相談スペースの確保を図ることで相談窓口の拡充を検討していきます。



## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
総合相談件数	23件	30件
ボランティア相談件数	78件	100件

### 地域でできること

#### 《市民》

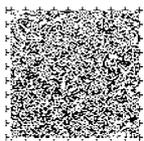
- ・ 困りごとがあれば市や社協に設置されている総合相談へ連絡する。
- ・ 周りに困っている人がいたら、市や社協に設置されている総合相談を案内する。
- ・ 地域の民生委員や隣近所で相談しやすい人に相談する。
- ・ 身近な地域のボランティア活動に参加する。

#### 《関係団体等》

- ・ 相談者からの相談を受け止め、行政や関係機関と連携し解決を図る。
- ・ 相談における情報交換や情報共有で連携する。
- ・ 身近な地域のボランティア活動に参加する。



専門的な窓口に相談するほどじゃなくても、普段利用している施設のスタッフとの雑談で悩みを聞いてもらったり、ちょっとしたアドバイスが聞けることもあります。心配ごとは一人で抱えないで早めに聞いてもらえる先を知っておきたいですね。





### ■現状と課題

市では、介護保険事業計画に基づき、地域密着型サービスをはじめ、在宅医療及び各種介護サービスが提供できる体制づくりに努めるとともに、母子保健における妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援、自殺予防対策の充実に向けた関係機関との連携、地域医療体制の整備、障害のある人の社会参加等を図る地域活動支援センター及び生活ホームにおける支援など、社会福祉サービスの支援に取り組んでいます。

社協では、管理運営する施設を中心に利用者の支援を行う中で、一人ひとりの状況・ニーズに応じて新たなサービスの利用を提案し、他の専門機関との連携により、よりよいサービスの提供に努めています。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【今後、朝霞市及び朝霞市社協で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか】では、「保健・医療・福祉の連携」が21.7%を占めており、専門職アンケートの設問【地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「高齢者世帯の生活支援」が20.7%で最も割合が高くなりました。

### ■目指す姿

高齢者、障害のある人、子ども・子育て世帯等が、必要な医療・社会福祉サービスを、安心して適切に利用できるまちを目指します。

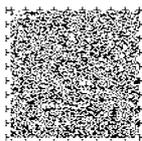
## 市の主な取組

### ①地域医療の確保 健康づくり課

医療機関が休診となる休日夜間においても、市民が医療機関で受診することができるように、医療体制の整備を図ります。また、地域医療体制の確立と保健衛生事業の推進に寄与することにより、市民の健康増進の拡充を図ります。

### ②各種健（検）診事業の促進 健康づくり課

乳幼児健康診査、がん検診、歯科検診など各種健（検）診事業として、受診ができる体制を図ります。また、健（検）診に関する情報を市民に周知し、疾患の予防及び早期発見につなげられるよう、取り組めます。



### ③妊娠・出産包括支援 健康づくり課

母子手帳の交付の際、保健師等の専門職がすべての妊産婦等の状況を把握し、必要に応じて支援プランを作成することにより、切れ目のない支援の実施を図ります。また、退院直後の母子の心身のケアや育児サポート等を行います。

### ④自殺対策の推進 健康づくり課

朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組みます。

### ⑤地域活動支援センター及び生活ホームへの支援 障害福祉課

障害のある人の社会参加促進を図る地域活動支援センター及び社会的自立の助長を図るための生活ホームの運営費等に対し、補助金を交付します。

### ⑥介護サービスの基盤整備 長寿はつらつ課

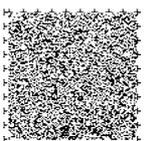
需要に合った施設を整備していくため介護給付費とのバランスを図りながら、国の基本方針に基づき、介護保険事業計画（第8期令和3～5（2021～2023）年度、第9期令和6～8（2024～2026）年度）の中で計画するとともに、地域密着型サービスについては、地域密着型サービス運営委員会に諮りながら整備を進めていきます。

### ⑦在宅医療・介護の連携強化 長寿はつらつ課

「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」「安心して療養できる地域」を目指し、高齢者が医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、医療と介護が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護サービスを提供できる体制作りに取り組みます。

### ⑧保育士の雇用環境の改善 保育課

ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力して、年に1回就職相談会を開催し、市内での保育所等への就職につなげていきます。また、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行います。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
地域密着型サービス事業所数	22か所	25か所
がん検診受診率 (女性特有:子宮頸がん、 乳がん受診率)	子宮頸がん 15.2% 乳がん 17.9%	子宮頸がん 50.0% 乳がん 50.0%
人口10万人当たりの 自殺死亡率	14.9	11.3

## 社協の主な取組

### ①機関連携研修会

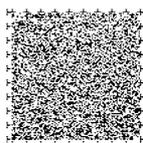
保健医療と介護及び障害者支援の専門機関同士は、カンファレンス等を通じて個別に連携が図られていますが、地域住民の複雑化・複合化した課題に対応するためには制度によらない支援体制の一層の充実が求められています。このことから、保健医療・介護、障害者支援及びその他の社会福祉の推進に係る機関等の参加により、それぞれの活動内容や機能を十分に理解し、連携の質の向上を図ることを目的とした研修会を実施していきます。

### ②障害のある人の就労支援

障害のある人の働きたいという気持ちを尊重し、相談や現場同行を通じて、その人の能力が発揮できる就労につながるよう支援を行います。一方、障害のある人を雇用する事業所については、一緒に働くにあたっての相談や助言を行い、障害がある人の働きやすい環境を整える支援が必要です。そのため、障害者就労支援センターでは、埼玉県障害者雇用サポートセンター、ハローワークと連携して障害のある人をサポートすることにより、地域で生活し、就労を通じて社会参加ができるよう、地域住民や事業所等に障害についての理解を深めていきます。

### ③社会福祉法人の連絡会議

長年、市内の社会福祉法人等の障害者福祉施設との横のつながりを強めていくために、「はあとねっと会議」や四市福祉施設看護師の「医療職ネットワーク会議」等を開催しています。今後、さらに市内の社会福祉法人に働きかけ、お互いに顔が見える関係を築き、協働・連携しながら積極的な地域福祉活動の取り組みを推進するため「社会福祉法人の連絡会議」を立ち上げ、地域福祉活動を支えるための仕組みづくりを進めていきます。



## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
機関連携研修会の実施	—	1回
社会福祉法人の連絡会議	—	1回

## 地域でできること

### 《市民》

- ・ 自分に合った福祉のサービスを選べるように情報を収集する。
- ・ 地域の病院や介護サービス事業所等の情報を把握する。

### 《関係団体等》

- ・ 関係団体等が提供する福祉サービスについて、情報を共有し、利用者へ提供できる体制を整える。



福祉は特別な誰かのためのものと思っていたけど、いざとなったらどこに相談すれば良いのか分からなかった。親の介護を経験して、福祉サービスや情報を前もって少しでも知っておければ、どんなに不安が少なく済んだかと思います。誰もが身近に感じられるくらい、サービスが充実するといいな。

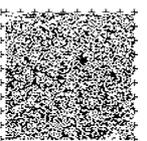
## 💡 コラム

### フレイル予防とは

「フレイル」とは、一般に加齢により、心身の活力が低下した状態などをいいます。年を取ると、筋力が落ちたり、全身の機能が衰えたりと、身体がもろくなってしまうことがあります。こういった状態が長く続くことで、介護が必要な状態になってしまうことが多いのです。

フレイル予防のポイントを4つ紹介します。

- ① 歯と口を健康に保つため、かかりつけ歯科医をもち、歯磨きの指導や定期的な歯科検診を受けましょう。
- ② 筋肉量を維持できるように、たんぱく質の多い肉や魚、大豆製品などを積極的に取るようにしましょう。
- ③ 筋力が衰えないように、毎日コツコツと身体を動かしましょう。
- ④ 人とのつながりの低下は、フレイルの第1段階ともされています。地域活動に参加するなど、地域のつながりを大切にしましょう。



### ■現状と課題

市では、高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が増加しているとともに、近年では、認知症高齢者や障害のある人も増加傾向にあることから、成年後見制度のパンフレットを作成し、制度の普及や活用を支援するほか市長申立てによる支援を行っています。

また、高齢者をはじめ、障害のある人、子ども等が安心して地域で生活できるよう、虐待通報等への対応や、虐待防止のための研修会等を開催しています。

社協では、福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートねっと）を実施し、高齢者・障害のある人が安心して地域で生活できるよう支援しています。また、各施設運営においても個人の尊厳に配慮した支援を行っています。

今後も、虐待事案への対応や支援などの充実を図るほか、成年後見制度の普及と活用など権利擁護を推進していく必要があります。

### ■アンケート等から

専門職アンケートの設問【地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「子どもへの虐待防止対策」が17.8%を占めており、団体アンケートの設問【包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項】では、「支援を必要とする者の早期把握」が25.0%と最も割合が高くなりました。

### ■目指す姿

認知症高齢者、障害のある人、子ども等、自己の権利を表明することが困難な人たちの権利や尊厳を守ることができまちなちを目指します。

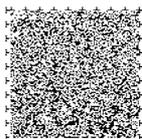
## 市の主な取組

### ①成年後見制度の利用促進 障害福祉課・長寿はつらつ課

認知症や知的障害のある人、精神障害のある人など、判断能力の不十分な人が不利益とならないよう、財産管理や身上監護を必要とする場合で、その人に身寄りがない等の場合に、市長による審判請求や後見人等の報酬を助成します。

### ②障害者虐待の防止 障害福祉課（障害者虐待防止センター）

障害のある人への虐待について、相談、通報又は届出を受けたときは、関係機関との連携により、円滑な解決を図ります。



### ③高年齢者虐待の防止 長寿はつらつ課

高年齢者の虐待について関係機関と連携を図るとともに、より早期に発見、対応していけるように、市民や関係者などを対象とした研修の充実に努めます。

### ④児童虐待の防止 こども未来課

要保護児童対策地域協議会の代表者、実務者及び児童福祉施設等職員向けに研修を実施し関係機関との連携を図るほか、市民向けにセミナーを開催するなど虐待の防止に取り組みます。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
成年後見市長申立て件数	障害のある人 3件 高年齢者 6件	障害のある人 4件 高年齢者 10件

※市長申立てとは・・・身寄りがいないなどの理由で、申立てをする人がいない認知症の高年齢者、障害のある人等の保護・支援を図るため、市町村長に法定後見開始の審判の申立権が与えられています。

## 社協の主な取組

### ①成年後見制度の理解・普及

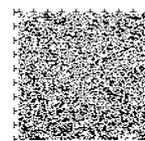
日々の暮らしに不安を抱える、認知症高年齢者や障害のある人等が、住み慣れた地域で安心して生活を続けていく一助となる成年後見制度については、市民の関心が高まりつつあるものの、広く普及するまでには至っていません。そのため、制度の理解・普及を目指し、市民を対象とした講座を開催します。

### ②虐待防止対策

社協が管理運営する施設に虐待防止のポスター等を掲示し、虐待防止の理解、啓発を図ります。また、施設利用者の様子を確認し、家族とコミュニケーションをとりながら状況確認を行い、必要に応じて関係機関に報告し、虐待の早期発見・抑制に努めます。

### ③福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)

住み慣れた地域の中で、高年齢者や障害のある人が、安心してその人らしく生活できるよう、多様な地域資源を活用しながら専門員による相談援助や生活支援員による定期訪問等の援助を行います。



◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
成年後見制度の講座開催	—	1回
福祉サービス利用援助事業利用人数	11人	15人

地域でできること

《市民》

- ・ 市民後見人制度を知るため、講座に参加する。
- ・ 虐待が疑われる場面に遭遇したら、行政機関へ通報する。

《関係団体等》

- ・ 成年後見制度が必要な人の異変に気づいたら、早期に相談機関につなげる。
- ・ 虐待を未然に防ぐため、保護者等の悩みごとの相談を受けるようにする。



お年寄りも、子どもも障害のある人も、誰もが個人の権利やいのちを守られることが、安心して暮らすための必要条件ですよね。わたしが誰かに尊重してほしいのと同じで、私も誰かの権利を守るためにできることを考えてみようかな。

💡 コラム

あんしんサポートねっと

このようなことでお困りではありませんか？  
 まわりに、このようなことでお困りな方はいませんか？

【福祉のサービスのこと】

- ・ どんな福祉サービスがあるのかわからない…
- ・ 利用のしかたが難しくて、どう進めればいいのか??
- ・ 知らない人と話すのが苦手で、係の人にうまく伝えられない…

【日々の暮らしのこと】

- ・ いろいろと郵便物が来てるけど、よくわからない…
- ・ 市役所に行って年金などの申請をしなくちゃいけないけど、何の書類を持って行かなきゃいけないんだろう…

【暮らしに必要なお金のこと】

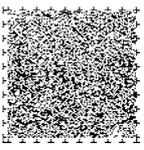
- ・ 水道や電気、ガスの支払いなど忘れてしまう…
- ・ 福祉サービスの利用料や病院の支払いを手伝って欲しい…
- ・ ひとり暮らしで、悪質な業者の勧誘にひっかかったらどうしよう…

【大切な通帳や書類のこと】

- ・ 預金通帳や印鑑、自分で持っていると無くしてしまいそう…
- ・ 保険証や年金証書、しまった場所を忘れちゃう…
- ・ 大事な預金通帳や土地権利証、どこかにやり取り取られちゃうんじゃないかと心配…

その心配、**あんしんサポートねっと**が、お手伝いできます。

福祉サービス利用援助事業



## 方向性5 生活困窮者等への支援の充実

### ■現状と課題

市では、生活困窮者等への支援として、自立相談支援、住居確保給付金の支給、学習支援を実施するほか、生活保護の適正な実施を確保するため、ケースワーカー、面接相談員、就労支援員を配置し、自立に向けた支援に努めています。

また、ひとり親世帯や生活保護世帯、生活困窮者等に対し、ハローワーク朝霞と連携し、一体的な就労支援を行っています。

社協では、生活資金に困っている人に対し、相談支援や福祉資金の貸し付けを行っているほか、他の社会福祉法人とともに地域のセーフティネットの役割を担っています。

今後も、生活困窮者等の自立を支援するために、効果的な取り組みを推進します。

### ■アンケート等から

専門職アンケートの設問【地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「子どもの貧困対策」が8.2%、「ひきこもりの人への支援」が7.2%、「生活困窮者への支援」が0.5%の割合でした。なお、自由意見では、「生活困窮者は、一目見ただけではわからないことが多いので、気をつけて見守りたい」という意見がありました。

### ■目指す姿

生活に困窮する人が、安心して自立に向けた支援が受けられるまちを目指します。また、生活に困窮する人を身近で見かけたときに、市や社協などにつなぐことができるまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①生活困窮者・世帯の自立支援（再掲） 福祉相談課

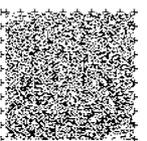
生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。

### ②生活保護の適正な運営 生活援護課

ケースワーカー等が生活困窮者の相談を受け、利用可能な支援策について助言を行います。また、生活保護が必要な人には生活保護を適用します。生活保護受給者に対しては、適正な保護を実施するとともに必要に応じて自立助長を促します。

### ③生活困窮者等の学習支援 福祉相談課・こども未来課

ひとり親世帯や生活保護世帯等の生活困窮世帯の中学生・高校生を対象に、高校への進学及び中退の防止等を目指し、学習支援事業を実施します。



#### ④内職相談 産業振興課

家庭外で働くことが困難で内職を希望する人に対し、内職の相談・紹介を行うとともに、内職提供事業所の調査、開拓及び仕事提供の依頼を行います。

#### ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
生活困窮に関する相談件数 (再掲)	563件	600件
生活保護受給世帯の 高校等進学率	90.9%	100%
生活困窮等世帯の学習支 援事業の利用者数	26人	36人

### 社協の主な取組

#### ①生活再建のための相談支援

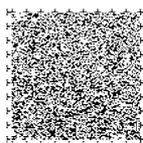
近年、非正規雇用や新型コロナウイルス感染症等を背景に、生活再建に関する相談が増加しています。当座の生活資金の相談から生活の安定が図られるまでに、その他の複合的な課題を抱えている人も多いため、市との連携強化を図り、様々な社会資源やその他の生活再建に必要な他制度を活用して、相談者の課題解決に向けて支援します。

#### ②子どもの貧困対策に関わる団体への支援

子どもの貧困に関する問題は、単に金銭的な援助で解決するものではなく、居場所づくりや様々な学びの支援も行う必要があります。市内では子ども食堂や学習支援団体等がその活動を行っています。社協ではボランティアの募集や助成金情報等を提供する他、市民へ団体の活動を周知するなどの支援を行っています。今後も、団体等の支援を行うとともに、地域の中で身近な人たちが子どもの貧困について学びを深め、関心を持つことで、温かい食事や学習をサポートしてくれる地域の助け合いをします。今後も活動につなげていくことができるよう、啓発活動等に取り組んでいきます。

#### ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
生活困窮に関する相談件数	92件	100件
子ども対象団体への支援	5回	10回



## 地域でできること

### 《市民》

- ・生活に困った時は、市や社協の相談窓口を活用する。

### 《関係団体等》

- ・地域の中で生活困窮者等の情報が寄せられた場合、市や社協等へ連絡する。
- ・地域の中で貧困家庭を孤立させない。



不安定な雇用情勢や新型コロナウイルス感染症による減収など、生活費の心配が山積みです。お金のことは誰にでも相談できないからこそ、安心できる窓口を利用したいです。

## コラム

### 学習支援

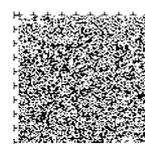
経済的な理由により学習が進んでいない中学生・高校生とその保護者の方を対象に、高校進学と中途退学防止のため、学習教室をはじめ進学や子育てなどの相談や支援を行っています。

学習教室は、週1回、午後6時から8時まで、市内の公民館1か所で実施しており、生徒は学生ボランティアとマンツーマンで、「学校の宿題や勉強を見てほしい」「定期テスト対策の勉強を教えてほしい」「進学したいけど、受験勉強のやり方が分からない」「勉強についていけない不安」「学校や家以外の居場所ってないかな」など、相談しながら勉強をしたりして過ごしています。

学習教室へ出向くことが難しい場合には、支援員が自宅を訪問して勉強を見たり、保護者と相談して生活習慣を整えたり、高校説明会や学校訪問など外出に同行したりするなど、状況に応じた支援も行っています。

【対象】①②いずれにも該当する方

- ①朝霞市に住民登録がある
- ②生活保護・児童扶養手当・就学援助のいずれかを受けている、又は生活に困窮している世帯等の中学生、高校生及びその保護者



## 方向性6 地域住民の交流の促進

### ■現状と課題

市では、地域包括支援センターに生活支援コーディネーターを配置し、身近な地域での交流やつながりづくりの取組を進めているほか、地域住民が交流できる拠点として、高齢者地域交流室、シルバーサロン、児童館、市民センター、公民館等を整備し、利用を促進するとともに、社協でも、地域の身近な集いの場である「ふれあい・いきいきサロン」や老人会食グループに対する助成を行うなど、交流や支え合い活動の支援を行っています。

令和2(2020)年の新型コロナウイルス感染拡大の折には、外出の自粛が求められるなど、通常のふれあいの活動ができず、交流を図れない時期がありましたが、今後も、引き続き、地域で活動するための拠点の整備やICTの活用についても検討し、交流を支援する取組を促進する必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなものが必要ですか】では、「気軽に集える場所」が33.1%と最も割合が高く、次いで「自治会・町内会・子ども会等」が32.2%の割合でした。

専門職アンケートの設問【地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべき事項】では、「住民等の交流会」が20.7%と最も割合が高く、【地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項】では、「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が26.4%で最も割合が高く、団体アンケートでも、21.4%の割合でした。

### ■目指す姿

住民同士が気軽に集い交流できる場が充実したまちを目指します。また、住民が行事やイベントなどに参加しやすく、交流が図れるまちを目指します。

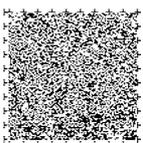
## 市の主な取組

### ①総合福祉センターの利用 福祉相談課

総合福祉センターを利用することにより、高齢者、障害のある人及び児童の交流を促進します。

### ②老人クラブ会員による世代間交流 長寿はつらつ課

老人クラブ会員が児童館事業の「伝承遊び」の講師として指導するなど、様々な機会に、様々な形の世代間の交流を行います。



### ③生活支援体制整備事業の推進 長寿はつらつ課

地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化、また、地域住民や高齢者の社会参加を図る「助け合いの活動」の推進を目標に、協議体や生活支援コーディネーターの活動により、地域の課題や資源の把握、課題解決に向けた検討を進めていきます。

また、地域資源を可視化し、地域のニーズとの円滑なマッチングや支援を進めます。

### ④生きがい活動の支援 長寿はつらつ課

高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い、市民に提供します。また、高齢者地域交流室の効率的な運用方法について検討していきます。

### ⑤多文化共生への理解の促進 地域づくり支援課

異なる文化への理解を深め、共生する社会を目指し、市民活動団体や関係機関と連携し、外国人市民を交えた交流会等の開催及び周知を行い、異文化に触れる機会を増やすことで相互理解の促進に努めます。

### ⑥地域団体間の交流・連携の促進 地域づくり支援課

自治会連合会が実施するコミュニティ活動や朝霞市コミュニティ協議会（朝霞市民まつり実行委員会）が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」などの開催について支援します。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
第2層協議体の会議開催回数	60回	72回

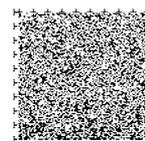
※「第2層協議体」については、P80を参照。

## 社協の主な取組

### ①地域住民の交流の機会の提供

福祉の関心を広げる仕掛けとしてのボランティア活動や地域デビュー講座、市内を5つの地区に分けての社協主催の地域懇談会などを積極的に開催してきたことで、幅広い世代の住民の参加・参画により住民同士の身近な交流の機会を作ってきました。このような地域づくりの中で、交流を深めながら温かく見守り、時にはおせっかいを受け入れるような、顔の見える地域づくりが大切となります。

これからも、このような地域を目指し、住民が主体となってより身近な地域で支え合う仕組みができるように、社協が実施する事業などを通じて、人材育成や地域づくりにつながるような交流できる機会を提供していきます。



## ②地域住民の交流の活性化

地域では、住民主体による高齢者や子育て支援などの身近なサロン活動が増えており、そうした活動や、関係づくりを支援することで、地域福祉を支える活動の活性化を図りました。こうした住民主体の活動により、身近な地域で支え合う意識が向上し、安心した暮らしにつながります。このような地域での助け合い、支え合いの活動をより広めるため、地域づくりや人づくりにつながる新たな場の立ち上げや、既存の活動支援を行っていきます。

## ③外国人への支援

外国人が地域で暮らす中で、言葉や制度、心の壁等、様々な課題があると言われてますが、その課題を解決するには、地域で暮らしている外国人住民への関わりや、多文化を理解する必要があります。外国人が安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくために、外国人を支援する団体等との連携を図るとともに、知る・学ぶ・交流する機会を設けていきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
地域住民の交流事業	72回	100回

## 地域でできること

### 《市民》

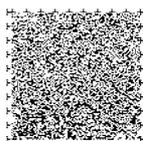
- ・ 外国人市民を交えた交流会等に参加する。
- ・ 自治会・町内会や地域の活動団体へ加入し、地域活動に参加する。
- ・ 地域の交流の場に参加する。

### 《関係団体等》

- ・ 地域の活動団体同士の交流や連携を図る。
- ・ 新しい住民へ自治会・町内会への加入を働きかける。



例えば道端で困っている人がいたとして、その人が知っている人ならきっと迷わず声をかけられる。  
知らない人だとそうはいかない(少し勇気がいる)。いざというときに助け合えるように、せめて顔見知りを増やせるような機会に足を運んでみようかな。



## コラム

# 第2層協議体とは？

協議体とは、人と人とのゆるやかなつながりを育むとともに、地域住民が“自分たちでできること”を合言葉に、身近にある生活上の課題やその解決方法、助け合いの仕組みづくりについて検討する会議体です。

市では、5つの日常生活圏域（概ね中学校区程度エリア）に地域包括支援センターを設置しており、その圏域ごとに合計5つの第2層協議体（詳細は下段）が活動しています。市では、地域包括支援センターごとに在籍する生活支援コーディネーターと協力して、各圏域の協議体が、毎月1回程度開催しています。

### ◆設立の経緯◆

協議体の設立経緯は、平成30（2018）年に「地域のなかりを考える市民フォーラム」を開催した際、講師からの助言により、その後、住民主体の助け合いをする仕組みづくりに興味がある方を対象に学習会を開き、平成31（2019）年4月から市内5か所に協議体が立ち上がりました。



### ◆第2層協議体の紹介◆

※以下は（協議体名：地域包括支援センター名（担当地区））を表記

①和（なごみ）の会：内間木苑圏域（朝志ヶ丘、上内間木、下内間木、宮戸 など）

・近所や子供との挨拶が少ない ➡ ◎サロン立ち上げによるつながりづくり  
・地域とのつながりが希薄

②楽しみ隊：つつじの郷圏域（東弁財・西弁財、三原、泉水 など）

・自宅近くに集いの場がない ➡ ◎自宅徒歩15分圏内に集いの場づくり  
・助け合いの関係性がない

③あ・さかつなぎ：モーニングパーク圏域（本町、溝沼 など）

・人と人とのつながりが希薄 ➡ ◎向こう3軒両隣とのつながりづくり

④ひいらぎお助け隊：ひいらぎの里圏域（岡、仲町、根岸台 など）

・課題の解決方法が分からない ➡ ◎住民の力で困りごとを解決する仕組みづくり  
・住民の力を活かしていない

⑤よろずや：朝光苑圏域（青葉台、栄町、幸町、膝折町 など）

・集いの場が分かりづらい ➡ ◎地域のサロンマップを作製し、集いの場に参加しやすい仕組みづくり

## コラム

# あさかりードタウン

あさかりードタウンは、土地所有者である積水化学工業株式会社と朝霞市が、平成27（2015）年から協力して開発を進めてきた街です。

根岸台三丁目地内にあった積水化学工業株式会社東京工場の7.3haもの広大な跡地は、緑と利便性に恵まれた「住・商業・保育施設」が整う複合大規模タウンとして生まれ変わり、戸建て住宅、分譲マンションの居住区域と商業施設や保育施設、公園などの地域のニーズに合わせた生活関連・公益施設等で形成されています。

## 新しいまちづくりの具体策

### 安心・安全

災害に強い耐震・耐久に優れた配管基盤を利用したインフラ整備やゲリラ豪雨対策の雨水貯留管、減災機能をもつ公園の設置（かまどベンチ、マンホールトイレ）します。

無電柱化は朝霞市の住宅地として初の取組であり、まちの景観向上と、災害時電柱の転倒による家屋の損壊などの危険を防ぐことができます。

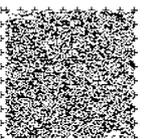
### 利便性

シェアサイクル、カーシェア設備をタウン内に設置し、近くでステーションで借りて必要な時に自由に利用できます。

小規模認可保育園と認可保育園をタウン内に設置し、家族が安心して働ける「育住近接」の環境を創ります。

### 自然環境

タウン内に豊富な植栽を施すことで住人の憩いの場となり、また周辺の自然環境や生態系保全に配慮した緑のまちづくりを進めています。



## 基本目標 2 思いやりと支え合いの心づくり

### 方向性 7 地域福祉に関する理解と参加の促進

#### ■現状と課題

市及び社協では、地域福祉、防災、災害ボランティアなどをテーマとする講演会や懇談会等を開催し、地域のつながりや支え合いの意識を高めるよう取り組んでいます。

また、地域で活動する団体の情報やイベントなどの情報を、広報紙やホームページ等で周知・啓発を行っています。

今後も、より多くの市民が参加できる講座、講演会、イベントなどの機会を提供し、地域福祉への理解を深めていく必要があります。

#### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【今後、ボランティア活動する機会があればやってみたいですか】では、「やってみたい」26.9%、「やってみたくない」11.9%、「どちらともいえない」50.2%の割合でした。

若者アンケートの設問【地域の活動・行事に参加したことがありますか】では、「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」が27.1%と最も割合が高く、また、【参加しなかった理由は何ですか】では、「どのような活動があるか知らない」が45.0%と最も割合が高く、次いで「忙しくて時間がない」「参加するきっかけがない」が38.8%の割合でした。

#### ■目指す姿

誰もが地域の一員である事を認識し、自分たちが暮らしやすい地域をつくるために、ボランティア活動等が促進されるまちを目指します。

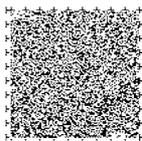
### 市の主な取組

#### ①地域福祉講演会の開催 福祉相談課

市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域の生活課題等をテーマとする講演会を開催します。

#### ②スポーツ・レクリエーションの集いの開催 障害福祉課

毎年7月の第一週に、障害のある人もない人も、誰もが楽しめるフライングディスクやボッチャなどのさまざまなスポーツを体験できるスポーツ・レクリエーションの集いを開催します。



### ③ふれあいスポーツ大会の開催 障害福祉課

障害のある人もない人も、一緒にスポーツを楽しみながら交流を図り、親睦を深めるふれあいスポーツ大会を開催します。

### ④市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲) 政策企画課

講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。

### ⑤市民活動の周知・啓発及び参加の促進 地域づくり支援課

市民活動やボランティアに関する情報を収集し提供するとともに、多くの人に市民活動に参加していただく機会の提供、市民活動の周知・啓発等を行います。

### ⑥スポーツの振興 生涯学習・スポーツ課

市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、スポーツイベント等を開催します。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
ふれあいスポーツ大会の参加者数	287人	290人
市民活動支援ステーションの延べ利用団体数	505団体	550団体

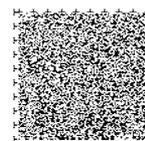
## 社協の主な取組

### ①ボランティア・実習生の受け入れ

誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては、子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。

### ②出前講座の実施

社協では出前講座の実施とともに、新たな講座の検討やメニューの見直しを図ってきました。今後は、さらに地域の様々な団体、企業等に対し、身近な地域でいつでも福祉の活動を「知る」「体験する」ことができるような講座の実施、メニューの充実、積極的な情報発信を行ってまいります。



### ③ボランティア講座の開催

講座内容の充実を図るため、地域に出向きサロン活動者やボランティア等から、現在のボランティアニーズの聞き取りを行っています。引き続き、ボランティアニュースや社協のホームページ、ツイッター等のSNSを用いて講座情報を広く発信していきます。また、地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、受講後も地域福祉を進める担い手となるよう継続的に参加者の支援を行っていきます。

### ④手話体験・要約筆記体験会の実施

聴覚障害に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。

### ⑤地域福祉財源の確保

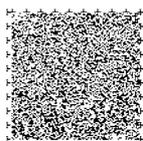
共同募金、寄付、社協会費等が有効に地域の福祉活動に活用されるよう、地域住民、企業、社会福祉法人等の参加度を高め、また、その資金に協力する人、助成を受けて活動する人、誰もが地域福祉の支え手として参画できるよう、分かりやすい周知の在り方を検討し、透明性の高い運動を展開します。

### ⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」

これまで住民参加型在宅福祉サービスとして、「ふれあいサービス事業」と「ホームクリーニング事業」を実施してきましたが、この2つを統合し、新たに「あいはあと事業」を開始します。この事業は地域の支え合いの仕組みをつくることを目的としており、日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたい」、「空いているときに人のお手伝いをしたい」、そんな想いをつなげる地域の支え合い活動を展開していきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
ボランティア講座の開催回数	7回	10回
手話体験・要約筆記体験会開催回数	2回	3回



## 地域でできること

### 《市民》

- ・ 市民講座や懇談会に参加する。
- ・ ボランティア団体や NPO 等の団体の活動に参加する。
- ・ 講座に参加し、得た知識や経験を地域に伝えていく。

### 《関係団体等》

- ・ 世代を超えて楽しく参加できる行事やお祭りを開催する。



高齢者や障害のある人、子どもや防災など地域福祉にはいろいろな面がある。誰もが安心して暮らせるまちを作るには、行政だけでなく市民の力は必要不可欠。私も友達を誘って市民講座に参加してみよう。

## コラム

### 手話通訳者等派遣事業

#### ■ 「手話体験」「要約筆記体験会」の開催

社協では、朝霞市より業務委託を受け平成21（2009）年2月より手話通訳者等派遣事業をスタートしました。聴覚に障害のある人が日常生活で円滑なコミュニケーションを図るために、手話通訳者などを派遣しています。また、手話講習会を開催し手話通訳者の養成も行っています。

その他に聴覚に障害のある人が地域で安心して生活できるよう、手話などで気軽に話せる環境を整える取り組みとして、ろう者や活動者を講師に迎えた手話体験会、要約筆記体験会を開催し、聴覚障害や手話などの理解を広げる取り組みも行っています。

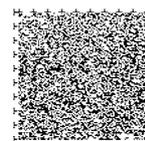
#### ■ 「手話体験会」の参加者の声

- ・ とてもわかりやすく教えていただきました
- ・ 子どもでもわかりやすかった（小学1年生）
- ・ もっと知りたいと思いました。伝えたい気持ちが大切なんだと思いました。
- ・ 身近にろう者の方はいませんが、勉強をもっとしたいと思いました。
- ・ 子どもと一緒に学べてよかった。子どもにとっても良い経験になりました。
- ・ コミュニケーションを取ろうとする意志があれば、会話は出来ると思いました。
- ・ 子どもと一緒に学ぶことで、家に帰っての会話が増えました。



#### ■ コミュニケーションの大切さ

手話がわからないと、聴覚に障害のある人とのコミュニケーション方法がわからないと思われるかもしれませんが、聞こえの程度も、コミュニケーション方法も人それぞれです。深く悩まず、まずは、声をかけてみることから始めてみませんか。



## 方向性 8 支え合い・助け合いの気持ちの醸成

### ■現状と課題

市では、社協とともに小中学生や教職員に対して、体験談を交えた福祉教育を行うほか、認知症ケアガイドブックの配布や、地域包括支援センターと認知症サポーター養成講座を実施しています。

また、障害者差別解消法による合理的配慮を周知するほか、市民や企業を対象に人権研修を開催するなど、支え合い・助け合いの意識啓発に努めています。

社協では、地域懇談会や各種講座等において、日常的に身近な地域と関わりを持つことの重要性を啓発しています。

今後も引き続き、支え合い・助け合いの気持ちを醸成するための取り組みを進めていく必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【どのようなボランティア活動をやってみたいと思いますか】では、「子どもの遊び相手」が18.8%で最も割合が高く、次いで「地域の自然を守る活動」18.6%、「災害時のボランティア活動」16.5%の割合で、このほか「高齢者・障害のある人の話し相手」12.7%、「買い物や病院等への車の送迎」8.0%、「外出の付き添い」6.3%、「身近な地域での声かけや見守り活動」9.6%の割合でした。

若者アンケートの設問【日常生活でニュースなどの情報をどのように入手しますか】では、「テレビ」が77.1%で最も割合が高く、次いで「インターネット」「SNS」が74.0%の割合でした。

### ■目指す姿

気軽に隣近所の人とあいさつを交わし、身近な支え合い・助け合いができるまちを目指します。また、福祉教育などを充実し、思いやりの心を育てていくことを目指します。

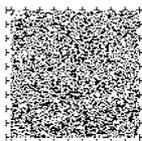
## 市の主な取組

### ①認知症への理解の促進 長寿はつらつ課

認知症サポーター養成講座や、認知症の家族介護教室などを実施します。また、認知症ケアガイドブックを作成、配布し、認知症の高齢者等との接し方などの周知を図ります。

### ②学校における福祉教育の充実 教育指導課

小・中学校の総合的な学習の時間において、アイマスク体験・車いす体験等を実施します。また、福祉部局と連携し、認知症サポーター養成講座を実施するなど、地域共生社会の実現に向けた教育を推進していきます。



### ③人権教育の推進 生涯学習・スポーツ課

市民人権教育研修会、企業人権教育研修会、人権問題講演会等の各種人権教育研修会を開催し、人権尊重の意識を高め、人権感覚の育成に努めます。

#### ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
認知症サポーター養成講座参加者数	1,100人	1,200人
福祉教育の実施学校数	15校	15校

#### 社協の主な取組

##### ①教職員対象の研修会の実施

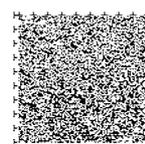
福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのため、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を継続的に実施していきます。

##### ②他機関と連携した福祉教育の実施

毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。

#### ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
教職員向け研修会の開催	1回	1回
福祉教育の実施	50回	60回



## 地域でできること

### 《市民》

- ・ 人権が尊重されるために、身の回りにある様々な人権課題を正しく理解する。
- ・ 講座や研修に参加し、支え合い・助け合いの気持ちを育む。
- ・ 福祉体験や学習の機会へ参加する。

### 《関係団体等》

- ・ 地域の人に講師として協力していただくなど、地域と連携して福祉教育を推進する。
- ・ 市民のボランティア活動を受け入れる。



こどもが学校の授業でふくしについて学習してきた。地域社会との関わりや助け合う大切さを話してくれた我が子に成長を感じた。私も朝霞に暮らす一人として、ふくしやボランティアのことを知ってみようかな。

### コラム

### 福祉教育

- 思いやり・助け合いの心をはぐくみます。
- 福祉についての理解を深めます。
- 福祉に関わる実践力をはぐくみます。

町で困っている人を助けることができるようになります!



高齢者疑似体験やアイマスク体験を経験すると「大変だった」「怖かった」という感想が聞かれ、「障害のある人の苦労が分かった」と言います。これは正直な感想でしょう。しかし、この体験は「ある動作ができない」の体験にすぎないのです。体験学習は必要ですが、ただの体験で終わらず、障害のある人が日々直面している「困りごと」に気づき、その課題の解決方法に対して考え工夫していく力をつけてほしいです。

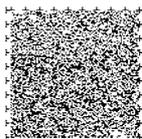
### 【将来の朝霞の担い手に正しく伝えよう】

子どもが障害のある人を見かけた時、「お母さん、あの人変だよ」って指をさすかもしれません。そんな時、「ジロジロ見ちゃダメ」「いいからこっちに来なさい」なんて言っていませんか？

子どもが興味を示したらチャンスです。その人が何に困っているのか、どうしたら良いのか等を親子で考えてみませんか？



朝霞市の福祉教育は、子どもから高齢者まで、障害がある人もない人も、国籍や言葉が異なる人も誇りを持って、心豊かな生活を送る事を目指しています。



## 方向性 9 地域での見守りの充実

### ■現状と課題

市では、高齢者、障害のある人、子ども、生活困窮者など、地域で暮らす全ての人が安心して生活できるよう、地域包括支援センターをはじめ民生委員児童委員、自治会・町内会などと連携し、地域の見守り活動を行っています。

特に、単身の高齢者や高齢夫婦のみの世帯等が増えていることから、配食サービス、乳酸飲料配付事業、緊急通報システム事業など、見守り支援体制の充実に努めています。

また、児童・生徒のもしもの時の駆け込み場所である「青少年を守り育成する家」の設置に努めています。

社協では、既にボランティア等の地域の活動に参加している人には活動以外の時にも地域を気にして継続的に見守ってもらうことを啓発しています。また、特に活動していない人でも日常生活の中で何かのついでで気軽にできる地域の見守りがあることを周知しています。

今後も、地域の関係者による見守り事業を充実していくほか、活動にご協力いただける人材の育成や団体等と連携していく必要があります。

### ■アンケート等から

専門職アンケートの設問【地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が20.7%と最も割合が高く、次いで、「子どもへの虐待防止対策」17.8%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が15.9%の割合でした。

### ■目指す姿

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、みんなで見守り、助け合えるまちを目指します。また、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係を築けるまちを目指します。

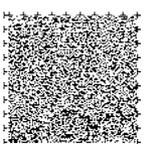
## 市の主な取組

### ①民生委員児童委員の活動支援 福祉相談課

地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップなどに努めます。

### ②地域包括支援センターと関係機関の連携 長寿はつらつ課

地域包括支援センターと民生委員等関係機関が連携し、一人暮らしの高齢者等の見守り活動を随時行います。



### ③安心見守り支援 長寿はつらつ課

高齢者が安心して日常生活を送るために緊急通報システム・安心見守り通報システム事業を、安否確認のために配食サービスや乳酸飲料配付事業等を実施します。

### ④児童相談所等との連携 こども未来課

児童相談対応において、一時保護、児童福祉司指導などの権限を有する児童相談所をはじめとする関係機関と適宜、情報共有や協議など連携を図ります。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
民生委員児童委員 延べ活動日数	12,856日	14,400日
高齢者配食サービスの 延べ利用者数	3,044人	3,350人

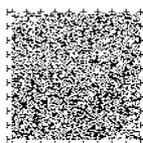
## 社協の主な取組

### ①住民参加による見守り事業の推進・啓発

住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係が必要です。そのために、地域住民が主体となって見守り活動ができるよう、ボランティアや事業協力者、講座参加者に働きかけを行い、子どもたちの登下校時等における地域の見守りの目の強化について啓発していきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
見守り活動の啓発	—	20回



## 地域でできること

### 《市民》

- 普段から隣近所であいさつを交わし、顔の見える関係を築く。
- 高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。

### 《関係団体等》

- 民生委員等、地域の福祉ネットワークを活用し、見守り活動を推進していく。



私たち住民に求められているのは、ご近所づきあい等によるゆるやかな“見守り”。福祉の専門職（プロ）が行う“見守り活動”と合わさることで、より一層安心して暮らせる福祉のまちづくりになるみたい。こどもたちの下校時間に合わせて見守りしながら犬の散歩を試してみようかな。

## コラム

### 民生委員児童委員活動

民生委員児童委員は、法律により厚生労働大臣から委嘱された特別職の地方公務員です。

民生委員児童委員は、担当する地域に暮らす身近な相談相手として、地域住民からの生活上の心配ごとや困りごと、医療や介護、子育ての不安などの相談に応じ、その課題が解決できるよう、必要な支援の「つなぎ役」となっています。また、地域の見守り役として、定期的な訪問などを通じて、高齢者や障害のある方、子どもたちの見守りを行っています。

朝霞市の民生委員児童委員は、定数164人のところ、令和3(2021)年1月1日現在、151人に委嘱しており、担当地域に分かれて活動しています。民生委員・児童委員のうち、主任児童委員は子どもや子育てに関する支援を専門に担当地域を限定せず活動しています。

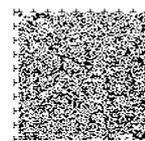
民生委員児童委員で構成する朝霞市民生委員児童委員協議会では、市を6つの地区(東・西・南・北・南西・東北)に分けて、毎月定例会議を開き、情報交換や研修会を行うなど、様々な活動に取り組んでいます。



(訪問の様子)



(情報交換会の様子)



### ■現状と課題

市では、介護サービスや子育てサービスなどに関するパンフレットを作成し、公共施設に設置するほか、ホームページに掲載しています。情報発信の手段としては、広報紙、ホームページ、ツイッター、掲示板など様々な媒体を使っています。

また、災害時を想定して避難行動要支援者台帳を作成し、社協、自治会・町内会、民生委員児童委員、地域包括支援センターなどと情報を共有しています。

社協では、広報紙、ホームページ、ツイッターのほか、施設・サービスごとの広報やパンフレットを用いて情報を発信しています。また、地域懇談会等の各種事業においても、市民に直接発信するよう努めています。

今後も、必要な福祉のサービスの情報を引き続き発信していくほか、個人情報の取り扱いを厳守し、情報の共有に努めていく必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【今後、朝霞市及び朝霞市社協で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか】では、「わかりやすい福祉情報の提供」が51.5%と割合が最も高くなりました。

また、【福祉情報の入手先】としては、広報紙「広報あさか」が64.8%と割合が最も高く、次いで「朝霞市のホームページ」が37.0%、社協の広報紙「社協あさか」が28.1%の割合でした。若い年代になると、SNSで情報を入手すると回答した割合が高くなっています。なお、若者アンケートの設問【利用している SNS は何ですか】では、94.3%が LINE を活用しているという回答でした。

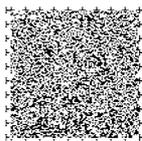
### ■目指す姿

必要な福祉サービスの情報が容易に入手することができるまちを目指します。また、災害時などに支援が必要な人の情報を共有し、支援していくまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①多職種参加の地域ケア会議の実施 長寿はつらつ課

地域包括ケアシステムの推進に向け、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所が携わっている個別ケースについて、アセスメントの効果的な方法や自立支援・重度化防止に資するケアプランの作成のために、多職種と検討を重ね、支援能力の向上につなげていきます。また、個別事例の積み上げから見えてくる地域の共通課題を共有し、課題解決に向け、関係者間で調整、ネットワークの構築、新たな資源の開発、さらには施策をボトムアップで推進していきます。



## ②介護保険制度の周知 長寿はつらつ課

介護サービスや介護保険等について、パンフレットやホームページ、市民説明会、あさか学習おとどけ講座等、様々な機会を通じて、よりわかりやすい情報提供を行います。

## ③子育て情報誌の作成 こども未来課

子育てに関する情報を一元化した子育て情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、子育て関連施設を通じて子どものいる家庭に配布するとともに、ホームページに掲載し、子育て等に関する情報を提供します。

## ④広報の充実 シティ・プロモーション課

行政情報施策及び行事等の情報を収集し、読みやすく編集した広報あさか（毎月1回）及び別冊（年1回）を作成・発行し、配布については市内全世帯へ配布する。また、市勢要覧、市民ハンドブックなど市政情報紙を発行するとともに、ホームページやツイッター、フェイスブック、掲示板、電光掲示板などで随時最新の情報を発信していきます。

## ⑤避難行動要支援者支援制度の推進 障害福祉課・長寿はつらつ課・危機管理室

災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。

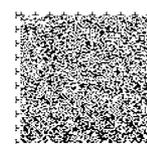
## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
広報あさか配布部数	66,303部	68,000部
地域ケア会議（全体・圏域）の実施回数	31回	44回

## 社協の主な取組

### ①分かりやすい福祉情報の提供

広報紙「社協あさか」、ホームページ等を用いて多くの福祉情報を提供していますが、今後は、誰もが必要なときに、必要な情報を得ることができるよう、従来の広報手段に加え、YouTube、ホームページ及びSNS等を活用し、分かりやすい地域の福祉情報の提供に努めます。また、各種イベント等の顔の見える環境において、社協のサービスや福祉情報の周知を行っていきます。



## ②メディア戦略の強化

複雑化・多様化する情報社会に対応するため、広報紙「社協あさか」等の既存の媒体に加え、SNSや新しいツールを弾力的に活用して、正確で鮮度の良い社協の情報や地域の情報の提供を目指し、メディア戦略の強化を図っていきます。

### ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
福祉の情報提供	SNS 194回 紙媒体 20回	SNS 250回 紙媒体 25回

## 地域でできること

### 《市民》

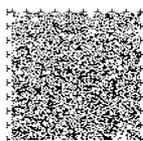
- ・ 「広報あさか」や「社協あさか」を読み、福祉サービスの情報を得る。

### 《関係団体等》

- ・ 情報が届きにくい人へ、配慮したわかりやすい情報提供に努める。
- ・ 民生委員や地域包括支援センターなど関係団体等が福祉サービス等の必要な情報を共有しておく。



必要な時に必要な情報が入手できるように、市や社協の広報紙を見るようにしています。他にも公共施設に行ったり、ホームページを見ることでも福祉の情報が得られることが分かったので安心です。お友達にも教えてあげようと思います。



## 方向性 1 1 地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成

### ■現状と課題

市では、自治会連合会の活動と連携を図り、市民の自治会・町内会の加入率向上に努めています。また、民生委員児童委員協議会のほか各種団体の活動を支援し、活動の活性化や人材の育成に努めています。

社協では、ボランティアセンターを運営し、地域のボランティアの支援や団体の活動支援等に取り組んでいます。

しかし、自治会・町内会をはじめ、団体の大多数が、メンバーの高齢化や次代を担う人材の不足に悩まされています。

今後も、介護予防や障害のある人の支援、子どもの健全育成などの活動を行う団体に対し、活動の活性化や人材の確保・育成への支援が必要になります。

### ■アンケート等から

団体アンケートの設問【活動を行う上で困っていること】では、「リーダー（後継者）が育たない」が39.3%で最も割合が高く、次いで「メンバーの高齢化」37.5%、「新しいメンバーが入らない」33.9%の割合でした。

また、【団体の活動情報をどのように発信していますか】では、「メンバーなどによる口コミ」が66.1%で最も割合が高く、次いで「チラシやパンフレットの配布」が44.6%の割合でした。また、【団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか】では、「知り合いを通して」が41.1%で最も割合が高くなりました。

### ■目指す姿

地域の活動団体へ必要な支援を行うことにより、住民が身近な地域活動やボランティア活動等に参加し、地域福祉が充実するまちを目指します。

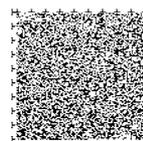
## 市の主な取組

### ①地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付 福祉相談課

地域における保健福祉活動の振興を図るために、地域福祉の振興事業を実施している、または計画している各種地域団体に対しその事業費の一部を助成します。

### ②老人クラブへの支援 長寿はつらつ課

老人クラブ等への補助金交付により、運営に対する資金的サポートを実施します。



### ③介護人材の育成 長寿はつらつ課

近隣市とも連携をしながら研修を開催する等、介護人材確保と人材育成の取組を進めていきます。

### ④生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援 長寿はつらつ課

各地域包括支援センターに1名ずつ生活支援コーディネーターを配置し、課題や資源を地域ごとに把握すると共に、生活支援コーディネーターが定期的集まり、地域活動団体への支援など、地域資源の新たな活用方法等を検討していきます。

### ⑤認知症総合支援 長寿はつらつ課

認知症初期集中支援チーム員会議、認知症地域支援推進員会議の定期的な開催と、新任職員研修等への参加により技能向上を図ります。

### ⑥青少年の健全育成 こども未来課

青少年健全育成団体（青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会）に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施します。

### ⑦心の健康づくりの推進 健康づくり課

社会情勢の変化等により、精神的なストレス要因の増大に伴う精神的不健康の増大に対し、ライフサイクルに応じた心の健康づくりの推進を図ります。また、相談援助業務に携わる保健師等が精神保健に係る事例検討を通して、相談援助技術の向上を図ります。

### ⑧コミュニティ活動の活性化 地域づくり支援課

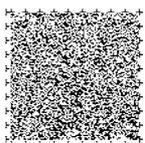
市民が相互に連携し主体的にまちづくりに参加するように意識高揚を図り、自治会・町内会及びコミュニティ関係団体への助成を行います。また、自治会連合会やコミュニティ協議会の活動内容等を市ホームページに掲載するとともに、団体が発行する広報紙の発行、配布の支援を行います。

### ⑨コミュニティ活動への参加促進 地域づくり支援課

朝霞市コミュニティ協議会（朝霞市民まつり実行委員会）が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の開催に対し、補助金の交付や事務局として積極的に支援していきます。また、彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助します。

### ⑩市民活動の活性化 地域づくり支援課（市民活動支援ステーション）

NPO法人の新設や市民活動団体を実施する事業に補助金を交付します（市民活動団体支援補助事業）。また、地域活動の担い手となる人材の発掘、活動に参加することに繋がる機会、ボランティア団体と市民活動団体の交流や連携等を目的とした事業を実施します。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
老人クラブ団体数	24団体	25団体
NPO法人数	47法人	60法人

### コラム

## 自治会・町内会活動

自治会・町内会は、町内等の同一地域に住む人たちが、安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指して、協力して地域の問題解決に取り組んでいる自主的に組織された団体であり、地域福祉の活動に欠かせない地域団体の一つです。

市民が自分たちの地域のことを考え、積極的にその活動に参加することで、有意義な自治会等の活動が展開されることが期待されています。

市内には、81の自治会・町内会が組織されており、地域の課題の解決や住民相互の親睦のほか、環境美化、防犯・防災、お祭りなどのコミュニティ活動など、さまざまな地域活動を市や社協と協働して行っています。



## 自治会・町内会の加入率向上に向けて!

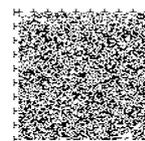
自治会連合会では、自治会・町内会加入率の向上を目指し、様々な活動を通じて、市民の方々に自治会・町内会に対して少しでも興味・関心を向けてもらえるよう、頑張っています!

### ● 加入促進街頭活動

朝霞駅や朝霞台駅、北朝霞駅の駅前にて、啓発品を配布し、自治会・町内会への加入を呼びかけました。

### ● 加入促進強化運動期間

2月と3月を「加入促進強化運動期間」とし、各自治会・町内会の担当者が自治会・町内会未加入世帯に直接お伺いし、自治会・町内会への加入をお願いしています。



## 社協の主な取組

### ①福祉活動団体に対する活動支援

身近な地域での見守り・支え合いの基盤となる自治会・町内会や福祉活動団体等に対して継続的な活動ができるよう助成等の支援を行います。また、団体と連携・情報共有し、地域福祉に参画する住民の増加や地域の活性化を図ります。

### ②手話講習会の実施

市からの受託事業の取組として、登録手話通訳者を育成するため、段階的に手話講習会を実施します。

### ③老人クラブに対する活動支援

高齢者が地域で楽しく豊かに充実した生活を送るための地域コミュニティの一つである老人クラブについて、市民の認知度を上げるとともにスポーツ及び芸能文化活動等の支援を行います。また、長年の知恵と経験のある会員の技能を活用した支え合い活動がより効果的に展開されるよう支援していきます。

### ④ボランティア講座の開催（再掲）

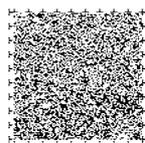
地域のボランティアニーズを把握し、ボランティアニュースや社協ホームページ・ツイッター等のSNSを用いて広く発信します。また、地域福祉の担い手となる人材育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、講座後も継続的に参加者の支援を行います。

### ⑤地域活動団体間の交流事業

朝霞市ボランティアセンターでは、地域福祉を支える団体の活性化を図るため、個々の団体への支援だけでなく、市が設置する市民活動支援ステーションと共催で、地域活動団体の交流事業を実施していきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
登録手話通訳者数	10人	13人
ボランティア講座の開催回数 (再掲)	7回	10回



● ふれあい・いきいきサロンとは？

地域の身近な「出会いや仲間づくり」「生きがいづくり」の場です。高齢者、障害のある方、子育て中の方など、誰もが住み慣れた地域で自分らしくいつでも安心して生活できるよう、住民が自主的・自発的に行う活動です。市内には20カ所以上のサロンが活動しています。

● サロン・おたっしょくらぶ代表者インタビュー（コロナ禍のサロン活動について）



Q. 感染症の流行により、活動の中で変化したことを教えてください。

A. 「サロン・おたっしょくらぶ」は、月に2回活動をしていましたが、令和2（2020）年3月から10月まで活動ができなくなりました。また、役員会も緊急事態宣言中は、4月まで中止になりました。解除後は、月2回から1回に、時間も2時間から1時間に縮小し、会場チェックと13名が3密にならないよう工夫をしました。また、サロン再開時期については、8月から準備を進めました。内容は、大幅に変え参加者を半分、時間は1時間、プログラムはフレイル予防のために身体を動かすことと参加者の声を聞くことに絞り、スタッフも3部に分かれ、合計4回行いました。しかし、朝霞市感染拡大により、12月12日の役員会で期限なしで収束まで中止としました。



Q. その中で、新しい発見はありましたか？

A. サロンを開催できないことで、安否確認ができなくなったことから、繋がりを絶やさないために、参加者宅に手紙や折り紙などを届け、いつでもサロンが開催できるよう準備をしました。その結果、スタッフと参加者の距離が近くなり、また、地域の状況を把握することができ（たとえば、〇〇さん宅から会場まで近い・危険個所・交通事情等）、役員会で共有することが出来ました。そして、参加者がサロンをいかに楽しみにして下さっていたかを知り、サロン活動の意義を学びました。



Q. サロン活動への想いをお聞かせください。

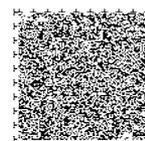
A. コロナ収束後は、地域の方々とサロンを通してこれまでよりも強く繋がり、もっと楽しんで頂きたいです。スタッフも楽しみたいです。また町内会等々と横の連携を取りながら若い方も交流していきたいです。



（活動の様子）



（活動の様子）



## 地域でできること

### 《市民》

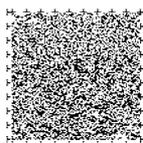
- 自治会・町内会や老人クラブなどの地域の活動に参加する。
- 彩夏祭や地域の清掃活動などにボランティアとして参加する。
- 赤い羽根共同募金や災害時支援の募金活動に協力する。

### 《関係団体等》

- 地域団体の活動を通じて、専門的人材を育成していく。
- 活動団体同士の交流や連携を図る。
- 活動団体の担い手になりそうな人へ声をかけて勧誘する。



朝霞には古くから多くのボランティアグループが活動しているけれど、活動を維持するにはいろんな課題があるみたい。これからも地域のために活動を続けてほしいから、私もボランティアとして参加してみようかな。参加できなくても、募金や寄付等、資金面から活動を応援する方法もあるんですね。





メイあさかセンターは、児童から高齢者まで年齢や立場を超えて、生涯学習社会、高齢者社会、国際化社会、情報化社会について、学習と活動を基に調査・研究を推進するとともに、他団体の活動を支援することで、より良い生活ができる地域づくりに寄与することを目指しています。

具体的な活動では、知的障害のある方たちとの「療育音楽を楽しむ会」の開催、学校教育と連携したマレーシアと朝霞市・埼玉県の児童生徒の絵画交流、生きがい支援の高齢者の集い等行っています。



(みんな集合!音楽で一日楽しく遊ぼう!)

中でも、年末行事の療育音楽を楽しむ会では「みんな集合!音楽で一日楽しく遊ぼう!」と称して、知的障害のある方たちを中心に楽器演奏の発表のほか、消防音楽隊をはじめとする団体等の演奏も披露され、音楽を楽しみながら、みんなが一つになれる会になっています。

● メイあさかセンター代表者インタビュー(コロナ禍の活動について)



Q. コロナ禍の活動の中で、苦勞したことはありますか?

A. 高齢者や障害のある人と一緒に活動をしているので、感染者が出ないようにと緊張の毎日でした。幸いなことに、消毒液やマスク等を寄付して下さる方がいらっしやったので、とても助かりました。自粛中には、ホームワークを送付するなど安否を確かめました。



Q. その中で、特に工夫した点はありますか?

A. 海外に渡航することができないので、例年実施しているマレーシアとの絵画交流を延期いたしました。そういった中で、空いた時間を利用して、普段はできないような、後継スタッフへのバトンタッチのためのマニュアル作りや学習会などに時間を費やしました。自粛明けには、高齢者とボランティアの協力で手作りマスクを沢山縫い、多方面に寄付することもできています。

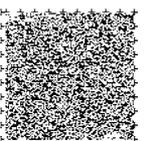


Q. これから活動を始める方へ一言お願いします。

A. 私たちは福祉分野と国際協力をノーマライゼーションの考え方と生涯学習の観点で結びつつ、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念を根底に、発足当初から活動を続けてきました。これから活動を始めようとしている方にも、様々な人達と共に歩むような活動をしていただきたいと願っています。



※ノーマライゼーションとは、障害のある人とない人が平等に生活する社会を実現させる考え方のこと。



## 基本目標3 安心して暮らしやすい地域づくり

### 方向性12 施設等の整備・充実

#### ■現状と課題

市の公共施設で、近年新たに建設した施設や大規模改修を行った施設ではユニバーサルデザイン化やそれに伴うバリアフリー化が進んでいますが、既存の施設では、敷地や施設設備が狭小であるなどの理由からバリアフリー化が困難な場合もあります。

引き続き、障害者差別解消法の観点からも、公共施設等におけるバリアフリー化を推進し、すべての人が安全に、安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた整備を進めます。

また、子どもから高齢者まで、様々な世代が交流する、地域に集まることができる活動スペースや活動拠点が整備される必要があります。

#### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか】では、「(障害者)バリアフリー環境の整備」が44.1%で最も割合が高くなりました。

専門職アンケートの設問【地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項】では、「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が26.4%で最も割合が高くなりました。

#### ■目指す姿

高齢者、障害のある人、車いすやベビーカー、杖を利用している人などが、施設等を利用しやすいよう、バリアフリー化が進むまちを目指すとともに、地域に暮らすすべての人が利用しやすい福祉サービスの拠点となる施設が充実するまちを目指します。

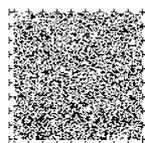
### 市の主な取組

#### ①公共施設の修繕・改修 関係各課

地域福祉の活動拠点として、市民が安心・安全に公共施設を利用できるように、必要に応じて施設改修を行います。

#### ②公共施設のバリアフリー化 財産管理課

公共施設の利用者が、長期間継続して、安心、安全、快適に使用できるように、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた設計を行い、バリアフリー化を推進していきます。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
公共施設におけるバリアフリー化項目の延べ整備数（項目：点字ブロック、スロープ、エレベーター、多目的トイレ、音声ガイド用スピーカー、車いす用駐車場、ローカウンター）	192項目	197項目

## 社協の主な取組

### ①地域の人が集える拠点（場）づくり

住民主体の地域活動を活性化していくには、地域の情報共有や取組について、地域住民が気軽に集まれて話し合える拠点（場）が必要とされています。そのために、拠点（場）となる場所について、空き家や営業店舗の一部分等の情報収集を行い、地域住民が気軽に利用しやすい場作りについて活用可能か検討していきます。

### ②施設の点検・修繕

社協が管理運営する施設において利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、日頃から施設内外の点検を継続的かつ定期的に行っていきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
点検施設数	21か所	21か所

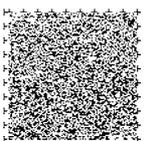


コラム

## ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い

ユニバーサルデザインは、子どもから高齢者まで、誰でも便利に使えるように、製品・建物空間をデザインしていこうという考え方です。はじめから誰でも使えるように設計することで、特定の人だけでなく、みんなが一緒に使いやすいデザインになります。具体例としては、自動ドアや多目的トイレなどがあります。

バリアフリーとは、障害のある人や高齢者を対象に、障壁を取り除くための施策であり、既存のバリアを取り除くことを言います。障害のある人の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的なすべてのバリアの除去という意味でも用いられます。具体例としては手すりやスロープ、点字ブロックなどがあります。



## 地域でできること

### 《市民》

- 施設を活用する。
- 施設の利用基準等を守る。

### 《関係団体等》

- 交流できる場所を情報提供する。



公共施設のバリアフリー化が進んで利用しやすくなってきたね。公共施設が少ない地域もあるから、店舗や家屋で場所を提供してくれそうな情報があったら、市や社協に連絡してみよう。歩いて行ける範囲に住民が寄り集まれる場所があると便利だからね。



### コラム

### 身近な地域の拠点

第五小学校の近くにある「板橋食品」というお店をご存知でしょうか？

食料品やお酒などを売っているお店ですが、令和2年から、店舗の一角を「三原公園前お休み処」として地域のために開放していらっやいます。

お喋りしたり、囲碁や将棋をしたりと、誰でもちょっと立ち寄って休める集いの場となっています。

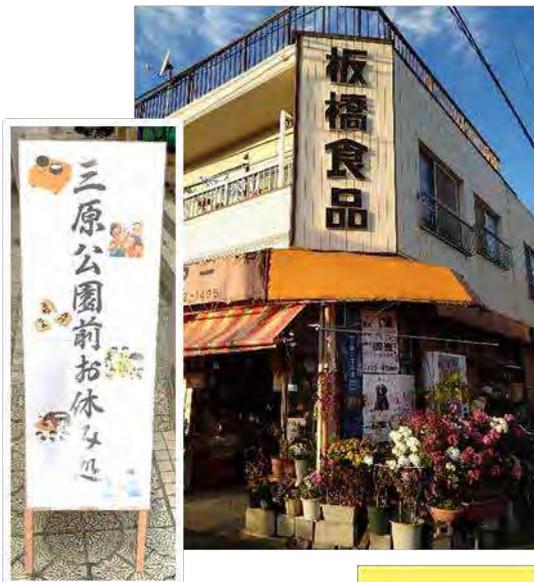
日時：月～金曜日 午前10時頃～午後5時頃  
(開店時間) (不定休)

場所：朝霞市三原2-4-1 (三原公園の目の前です！)

店主の飯塚さんです。



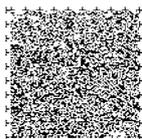
団楽スペースです。



子どもたちが緊急時  
にかけこめる場所  
でもあります。



近くにお越しの際には、ぜひ覗いてみてください。



### ■現状と課題

市では、地域防災アドバイザーと協力し、自治会や町内会単位での自主防災組織の組織化を進めるとともに、災害時に支援を必要とする避難行動要支援者台帳を作成し、民生委員児童委員や自治会・町内会などへ、台帳登録者の情報を提供しています。

また、防災フェアや小学校区での防災訓練等を実施し、防災に備える意識啓発や関係団体における日頃からの顔の見える関係づくりを図っています。

社協では、地域懇談会等において災害に備えた自助・互助の強化の重要性について啓発しています。

防災対策の充実を図るためには、自主防災組織の取組を支援するとともに、市民一人ひとりの防災意識の向上を図っていく必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【地域のつながりが必要と感じる時はどのような時か】では、「災害が起こったとき」が82.3%と最も高く、【地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合えるためにはどのようなことが必要か】では、「地域での定期的な防災訓練」が41.3%と最も割合が高く、次いで「地域での自主防災組織づくり」が38.8%の割合でした。

また、【あなたが地域の自主防災組織に参加していない理由は何ですか】では、「仕事や家事で忙しい」が47.4%で最も割合が高く、次いで「行事・活動の情報が少ない」が35.7%の割合でした。

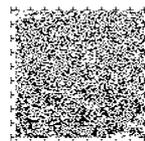
### ■目指す姿

災害時に安全・安心が確保できるよう、自主防災組織の活動や避難訓練など、日頃から地域で防災対策に取り組んでいくまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①避難行動要支援者支援制度の推進(再掲) 障害福祉課・長寿はつらつ課・危機管理室

災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。



## ②防災意識の高揚 危機管理室

防災意識の高揚を図るため、防災に関する情報を市から発信するとともに、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、子どもから大人まで誰でも参加できる防災イベントを実施します。

## ③自主防災組織の結成促進 危機管理室

自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進します。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
メール配信サービスへの登録者数	5,134人	10,000人

## 社協の主な取組

### ①災害ボランティア講座の実施

災害は全て想定内で起こるとは限りません。想定外のことも踏まえ普段から地域のつながりや防災意識を高めるため、これまでも災害ボランティア講座を開催してきました。今後さらに地域住民同士が支え合う意識の醸成を図るため、地域住民や社協職員を対象とした講座を開催します。また、災害ボランティアとして活動できる人材を増やしていきます。

### ②災害ボランティアセンター設置訓練の実施

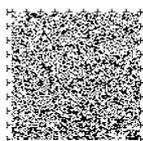
災害ボランティアセンターは、社協職員だけでは運営が難しいとされています。そのため、災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していくためには、継続的な訓練が必要です。社協職員に限らず、行政や地域住民にも参加を呼びかけ、横のつながりを確認しながら訓練に取り組んでいきます。

### ③防災訓練の実施

社協が管理運営する施設において、火災や自然災害を想定した防災訓練を実施し、平時から災害に備えるとともに、施設利用者や地域住民に対して防災意識の啓発に努めます。

### ④小地域福祉活動における防災事業の相談支援

自治会・町内会やボランティア団体が行う防災関連事業に対し、災害発生時の初期対応や身の周りにあるもので作れる災害グッズ等の情報提供を行ってきました。今後は、災害時の様々な場面で役立つ情報や災害関連の講座案内等、地域住民の支え合いによる防災活動について社協から情報発信を行いつつ相談支援を行っていきます。



## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
災害ボランティア講座	1回	1回
災害ボランティアセンター 設置訓練	1回	1回
防災訓練の実施施設数	21か所	21か所

### 地域でできること

#### 《市民》

- ・ 日頃から防災への関心を持ち、市や地域で実施する防災訓練等に参加する。
- ・ 地域の自主防災組織の活動に参加し、平時から顔の見える関係づくりに努める。
- ・ 災害ボランティア講座で得た知識を家族や周りの住民に伝える。
- ・ あらかじめ避難場所や避難所の場所を確認しておく。

#### 《関係団体等》

- ・ 地域のつながりを強化し、災害時等の見守り支援体制を築いていく。



災害の時こそ、助け合いが必要だね。でも普段からのご近所づきあいがなければ、いざというときに助け合うのは難しそう。地域の防災訓練に参加して防災の知識を身に付け、地域のつながりを作っておかなきゃ。

### コラム

## 防災イベント in 栄町

### ～わたしたちでできることを考えよう～

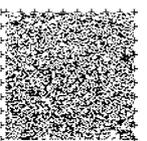
栄町で開催した地域懇談会をきっかけに、住民同士のつながりから生まれた企画です。栄町地区の特徴や課題などを話し合っていくうちに、世代間の関りがもっと豊かになるイベントをやってみようとなり、身近なもので作れる防災グッズ工作や非常食の試食の他、栄町地区の住民が調査して作り上げたまちかど消火器マップなどを通して、参加者は自分でできる備えと栄町地区の防災体制を”見て・聞いて・感じる”機会となりました。



講演終了後、講師に質問している様子が見られました。ペットも家族、大事なペットと一緒に避難したいという相談でした。



- ・ 初めて地域のイベントに参加しました!
- ・ 交通安全や防犯など、地域で見守ることのできる関係づくりのため、自らもできることを行っていきたいと思いました。



## 方向性 1 4 防犯対策の充実

### ■現状と課題

市では、警察や関係機関と連携し、地域で発生した犯罪を掲載した防犯ニュースを配信するほか、青色防犯パトロールカーを運行するなど、地域の防犯活動に取り組んでいます。

また、悪質商法など消費生活に関するトラブル防止のため、消費生活の相談にも取り組んでいます。

社協では、警察と見守りネットワークの協定を締結し、地域懇談会などを通じて、ご近所とのつながりや見守りが防犯にも有効であることを啓発しています。

防犯対策の充実を図るためには、市民一人ひとりの防犯意識の向上と地域の協力による防犯活動を進めていく必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【地域のつながりが必要と感じる時はどのような時か】では、「地域で事件や事故が起こったとき」が43.3%を占めており、専門職アンケートの設問【最近、地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」1.9%、「青少年の健全育成、犯罪や非行」1.9%、「過去に罪を犯した人への更生支援」1.9%の割合でした。

### ■目指す姿

防犯パトロール等で犯罪の起こりにくい環境づくりに地域で取り組むとともに、防犯情報の提供や周知、啓発に努め、防犯意識の高いまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①防犯情報の発信 危機管理室

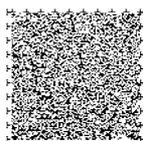
防犯ニュースの配信、防災行政無線の放送等、様々な方法で適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めます。

### ②防犯活動の推進 危機管理室

防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進していきます。

### ③消費生活相談(再掲) 地域づくり支援課

消費者被害の未然防止・被害回復のため、消費生活相談員による相談を行います。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
警備員による青色防犯パトロールカーの運行	週5回	週5回

## 社協の主な取組

### ①子どもへの防犯教室の実施

社協が管理運営する児童を対象とした施設において、自分の身を守るために普段からできること等、分かりやすく防犯について学ぶための機会を提供します。また、施設間でも防犯対策について情報を共有し、防犯対策の充実を図っていきます。

### ②住民の防犯への意識の啓発

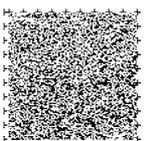
地域住民に対して、朝霞警察署と社協の見守りネットワークの協定により提供される「地域防犯支援情報」を活用した情報提供を行います。また、社協が開催する講座や研修会、集い等の場でも地域の中で取り組んでいる防犯活動の事例を紹介・周知し、防犯意識を高める啓発を行っていきます。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
子どもへの防犯教室	6回	10回



(防犯教室の様子)



## 地域でできること

### 《市民》

- 自分たちの安全は自分たちで守るという意識を持ち、日頃から防犯に関する情報への関心を高める。
- 地域の防犯活動に参加する。

### 《関係団体等》

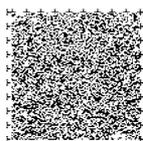
- 地域の防犯パトロールを行う。
- 振り込め詐欺被害が出ないように、周知・啓発する。



うちの近所の街灯の設置管理や地域安全パトロールは、ご近所の住民による活動だったんだね。  
安心して暮らせる地域づくりには、お隣さんと声をかけあったり、自分たちでできることも高めていくことが必要なんだ。



青色防犯パトロールカーは、青色灯を点灯し、市内をくまなくパトロールしています。



### ■現状と課題

障害のある人や高齢者など外出に困難を感じる人、また自宅付近に坂が多い、公共交通がないなどといった外出に困難な地域の人が出て、買い物、通院、通学、通勤などに不便が生じ、中には閉じこもる人がいて、健康を害する場合があります。

市では、市内循環バスに係る経費を一部負担し、市民の安全な移動と利便性の向上に努めるとともに、重度心身障害者福祉タクシー利用料の補助や、高齢者バス・鉄道共通カードの給付等を行ってきました。すべての人が、支障なく外出できるよう、移動手段の確保や安全な移動環境の整備等、必要な支援を進めていく必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【通勤や通学などの交通の便の満足度】では、「満足」及び「どちらかといえば満足」が62.1%の割合で、「不満」及び「どちらかといえば不満」が19.1%の割合でした。

若者アンケートの設問【朝霞市に住んで良かったこと】では、「交通の便が良い」が66.8%で最も割合が高くなりましたが、【朝霞市に住んでいて困ったこと(悪い点)は何ですか】では、「交通の便が悪い」が13.4%で3番目に高い割合でした。

### ■目指す姿

すべての市民が支障なく外出できるよう、公共交通をはじめとする移動手段と安全な移動環境の確保ができるまちを目指します。

## 市の主な取組

### ① 重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助 障害福祉課

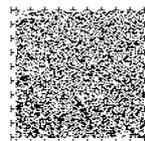
重度の心身障害のある人の社会生活圏の拡大と経済的負担の軽減のため、福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード、自動車燃料費の中から選択制により補助を行います。

### ② 高齢者バス・鉄道共通カードの給付 長寿はつらつ課

高齢者の外出支援を目的として、バス・鉄道共通カードの交付及び給付を行います。

### ③ 市内循環バス等の利便性向上 まちづくり推進課

持続可能な地域公共交通の実現を目指し、市内循環バスの運行計画等の見直しに向け検討を行います。



#### ④自転車駐車場の整備 まちづくり推進課

自転車駐車場のキャンセル待ち対応、3人乗り自転車や大型化する車両への対策、施設の老朽化対策について検討していきます。

#### ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード及び自動車燃料費(いずれか1つを選択)の重度心身障害者利用者数	2,392人	2,500人
高齢者バス・鉄道共通カード申請者数	14,664人	17,000人

#### 社協の主な取組

##### ①障害のある人や高齢者の外出支援

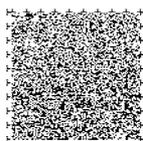
障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、外出時の手段も大切な役割を担っています。その手段の一つである住民による生活支援サービス「あいはあと事業」により、外出を支援していきます。

##### ②車いすの貸出し

けがをして車いすが必要になった、病院から退院する際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行います。貸出し時には、操作方法について説明し、車いす利用時の事故を予防していきます。

#### ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
車いすの貸出し	56件	60件



## 地域でできること

### 《市民》

- ・ 自転車を止める際には、放置自転車とならないよう適切な駐輪場所に駐車する。
- ・ 隣近所の支え合いにより、外出を支援する。

### 《関係団体等》

- ・ 移動サービスの情報を地域の中で共有する。
- ・ 公共交通等のバリアフリー化と利便性の向上に努める。



けがで松葉杖を使っていたときの外出って、歩道が狭かったり、段差があったり、とても大変だったけど友達が助けてくれたから安心だったよ。お年寄りはもちろんだけど、ベビーカーや車いす、白杖を使っている人が困っている様子だったら、今度は僕から「お手伝いできることはありますか」って聞いてみよう。

## コラム

### “住民参加型”在宅福祉サービス あいはあと事業 ～出「会い」・支え「合い」・見守りの「eye」～

#### ■ あいはあと事業とは？

「できるときに」「できることを」「できる範囲で」行う有償ボランティア活動です。

日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたいな」「空いているときに人のお手伝いをしたいな」そんな思いをつなげる地域の支え合いの仕組みをつくり朝霞の地域に暮らす人どうして困ったときに助け合える関係をつくるのが目的です。

いつもありがとう。

お隣の一人暮らしのおばあちゃん、お掃除大変だろうから手伝おうかな。



利用会員



協力会員

#### ■ あいはあと事業の位置づけ

互助（近隣や友人・知人どうしの助け合い）の一つで、公助（行政による支援）や共助（制度化された助け合い）に比べ柔軟に対応することができる面があります。

一方で、この事業で全てを解決しようとするものではありません。

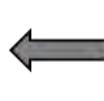
この事業をきっかけに、他の制度やサービスにつなぐことも大切な役割です。

介護保険を検討した方が良く  
かもしれません。  
地域包括支援センターに  
相談してみましょう。

利用会員の〇〇さんの  
物忘れがかなり増えている  
気がします。



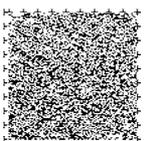
関係機関



事務局（社協）



協力会員  
（地域のボランティア）



### ■現状と課題

国では、平成29(2017)年に新たな住宅セーフティネット制度をスタートし、民間の空き家・空き室を活用して、高齢者、低額所得者、障害のある人等の「住宅確保要配慮者」の入居を拒まない賃貸住宅の登録制度が創設されるなど、住宅確保要配慮者への支援を推進しています。

市では、住宅確保要配慮者に対する支援はまだ整備されていませんが、市営住宅50戸、高齢者住宅21戸を提供しています。今後は、住宅部局と福祉部局が連携して、住宅を自力で確保することが難しい高齢者、低所得者、障害のある人などに対する支援体制を構築していきます。

また、現に居住する家の改修(居宅介護住宅改修等)に補助を行うなど、安心して住み続けられるような支援を行います。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【あなたの身近な地域には、どのような課題がありますか】では、「空き家の増加」16.5%、「居住に課題を抱える人への支援」6.3%の割合でした。

### ■目指す姿

居所の確保に困難を感じる人への支援を行うとともに、住まいの老朽化などで居所を失うことがないよう、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①住居確保給付金の支給(再掲) 福祉相談課

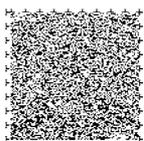
離職等により経済的に困窮し、住居を喪失した人又は喪失のおそれのある人からの申請に対し、審査の上、家賃相当分の住居確保給付金を一定期間支給します。

### ②高齢者への住宅支援 長寿はつらつ課

民間賃貸住宅の借上げにより、住宅の確保が困難な高齢者に対して住宅を提供していきます。また、住宅確保要配慮者への情報提供や住宅改善の助成をしていきます。

### ③住宅政策 開発建築課

住宅を自力で確保することが難しい低額所得者、高齢者、障害のある人などが、安心して暮らせる住宅を確保できる環境の実現に努めます。



## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
住居確保給付金の支給件数	3件	10件
住宅に関する相談件数	—	30件

## 社協の主な取組

### ①生活困窮者等への支援

住宅の確保が困難な人に対し、住居に関する必要経費の相談や課題の整理を行い、必要に応じて生活福祉資金貸付等の支援を行います。

## ◎社協の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
住宅に関する相談件数	13件	20件

## 地域でできること

### 《市民》

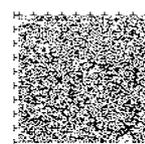
- ・ 困っている人がいたら、相談窓口を案内する。
- ・ 空家の情報を提供する。

### 《関係団体等》

- ・ 住みやすい住宅などの情報や課題を地域で共有する。
- ・ 住宅の斡旋や入居の受け入れに協力してもらうよう取り組む。



住まいは生活の基盤だからこそ、住宅の確保に困難を抱える人には相談窓口があることを教えてあげたいです。



### ■現状と課題

犯罪や非行をした人が、市民の理解と協力を得ながら円滑に地域社会の一員として生活していくことで、犯罪の未然防止につながり、安心して暮らしやすい地域づくりの実現へとつながります。

市では、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支援する保護司会をはじめ、女性の立場から地域の犯罪予防活動や更生支援を行う更生保護女性会などの活動により、犯罪や非行をした人が地域で円滑な社会生活を営めるよう支援しています。

また、平成28(2016)年2月には、地域における更生保護活動の拠点として、朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター（はあとぴあ）内に開設しました。こうした更生保護活動を行う保護司会等の支援をはじめ、刑事司法関係機関や医療・福祉関係機関等と連携することにより、犯罪や非行をした人を支援する取り組みを進める必要があります。

### ■アンケート等から

市民アンケートの設問【地域のつながりが必要と感じる時はどのような時か】では、「地域で事件や事故が起こったとき」が43.3%を占めており、専門職アンケートの設問【最近、地域で気になる課題で、優先的に解決すべき項目】では、「青少年の健全育成、犯罪や非行」1.9%、「過去に罪を犯した人への更生支援」1.9%の割合でした。

市民アンケートの設問【保護司の活動のうち知っているものは】では、「保護観察」が36.4%、「保護司は知っているが活動で知っているものは特にない」が21.3%「犯罪予防活動」が12.7%の割合で、「保護司自体を知らない」が37.1%で最も高い割合でした。

### ■目指す姿

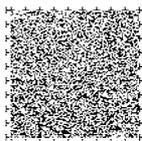
地域住民の理解と協力を得ながら、地域社会で孤立させないようにすることで再犯の防止につなげ、犯罪や非行のないまちを目指します。

## 市の主な取組

### ①更生保護関係団体への支援 福祉相談課

保護司は保護観察対象者に対し、立ち直りに必要な指導や就学、就職支援にあたるほか、矯正施設等から社会復帰した人が、円滑な社会生活を営めるよう帰住先の環境の調整や更生保護相談を行っています。犯罪や非行をした人たちの再犯防止と社会復帰に取り組むよう保護司会の活動を支援します。

また、犯罪や非行の未然防止のための啓発活動を行うほか、青少年健全育成など改善更生に協力する更生保護女性会の活動についても協力します。



## ②更生保護サポートセンターの支援 福祉相談課

地域における更生保護の活動拠点として、朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター（はあとぴあ）内で運営することに引き続き協力します。更生保護サポートセンターの設置により、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されるほか、保護観察所や保護司との情報交換などが円滑になり、更生保護活動の充実が図られます。

## ③社会を明るくする運動 福祉相談課

保護司会及び更生保護女性会と協力して、強調月間である7月に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めるよう、懸垂幕の掲出や、駅頭での啓発活動など「社会を明るくする運動」を推進します。

## ④再犯防止に関する広報の推進 福祉相談課

7月の再犯防止啓発月間において、再犯防止に関する広報を行い、市民への理解と周知に努めます。

## ⑤生活困窮者自立支援 福祉相談課

犯罪や非行をした人に対して、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給など、各種支援を行います。

## ⑥青少年健全育成啓発キャンペーン こども未来課

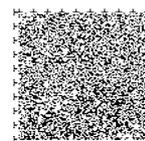
青少年育成市民会議が主体となって、青少年をはじめ市民を対象に、啓発物の配布など非行防止・薬物乱用防止に関する啓発に努めます。

## ⑦非行防止教室の実施 教育指導課

学校が保護者、地域、警察等の関係機関と連携を図り、児童生徒の非行防止や薬物乱用防止等の教育を推進するため、教室等を実施します。

## ◎市の指標・目標

指標	現状値	目標値
	令和元年度	令和7年度
市内における刑法犯認知件数	924件	831件



## 地域でできること

### 《市民》

- ・ 犯罪や非行防止と立ち直りを支える取組である「社会を明るくする運動」への理解を深める。
- ・ 保護司、保護司会、更生保護女性会などの更生保護ボランティア活動に理解を深め、その活動に参加・協力する。

### 《関係団体等》

- ・ 「社会を明るくする運動」などを通じて、再犯防止における地域での理解を進める。



犯罪や非行の防止は、個人や家庭だけではなく、地域も共に取り組む必要があるそうです。行政や市内の活動団体のイベントに参加してみようかな。

## コラム

### 保護司とは？

保護司は、法務大臣が委嘱する更生保護のボランティアで、犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるとともに、犯罪予防の活動に取り組み、地域の安全安心に貢献しています。

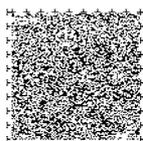
市では令和3(2021)年1月1日時点で、21名が保護司として活動しています。

保護司は主に次のような活動を行っています。

- ① 保護観察になった人への助言や指導、面接等
- ② 刑務所や少年院など(矯正施設)の入所者の、出所後の生活環境等の調整
- ③ 地域での犯罪予防の啓発活動

### 更生保護サポートセンター

朝霞地区保護司会では、平成28(2016)年2月に朝霞市総合福祉センター内に「朝霞地区更生保護サポートセンター」を開設しました。更生保護サポートセンターは、地域における更生保護の諸活動の拠点です。「企画調整保護司」が常駐し、保護司の処遇活動の支援、関係機関・団体との連携、犯罪・非行の予防活動、更生保護関係の情報提供等を行っています。



法務省が主唱する「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人々の改善更生についての理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

### 第69回社会を明るくする運動 朝霞地区大会

令和元(2019)年7月24日(水)に志木市民会館パルシティにて、埼玉県更生保護観察協会朝霞支部並びに朝霞地区保護司会(朝霞支部・志木支部・和光支部・新座支部)の主催で、「社会を明るくする運動朝霞地区大会」が開催されました。

当日は、式典や中学生による吹奏楽の演奏に続き、教育評論家の方による講演会が行われました。

また、イベントコーナーとして、刑務所で製作した木工・洋裁製品(CAPIC製品)や福祉作業所で製作したクッキー等の販売のほか、薬物乱用防止キャラバンカーの展示を行い、薬物を乱用することの恐ろしさについて学ぶことができました。



(式典)



(CAPIC製品の販売)



(キャラバンカー)



(キャラバンカー内部)

